

開学40年を機に：レガシーからコミットメントへ

本学は、本年、開学40周年を迎えます。1872年(明治5年)、明治政府によって我が国最初の高等教育機関として創立された師範学校から東京教育大学にいたる前身校の歴史を加えて創基141年を迎えます。そのレガシーのもと、激動するグローバル社会を強く意識し、地球規模課題の解決と未来地球社会の創造に向けた知を創出するとともに、それを牽引するグローバル人材を育成することを使命として、我々は未来に向けた研究・教育の革新を進めています。



開学記念日である10月1日には、文部科学省、茨城県、筑波研究学園都市に関する閣議決定から数えて50周年の節目を迎えるつくば市、また学内外からの本学にゆかりの深い研究者、教育者などの関係者をお招きし、祝典が開かれます。建学以来の歴史を見つめ、「開かれた大学」、「不断の改革を進める大学」といった理念を想い、ヒトと地球の豊かな未来を思い描き創り上げる夢を共有したいと考えています。

お迎えするお客さまの中には、我々の研究・教育の重要なパートナーであるカリフォルニア大学アーバイン校、ボルドー大学、国立台湾大学をはじめとする海外の諸大学などからの方々も多数いらっしゃいます。これらの方々の御参加を得て、記念日前日(9月30日)には、「Higher Education without Borders」と銘打ったシンポジウムを開催し高等教育の明日について議論します。また、これまでいろいろな部局で個々に努力してきたボトムアップの研究交流の試みを、出来る範囲で集約した研究会群、名付けて「Tsukuba Global Science Week (TGSW)」(10月2～4日)も開催します。グローバル人材育成に向け、海外教育組織との協働の重要性もますます増えています。本学は、TGSWを契機に、研究・教育の国際的なハブとして、また国や組織の壁を超えたバリアフリーの研究や教育を先導する大学としての存在感を確立していきます。皆様の積極的な参加を期待しています。

2020年のオリンピックの東京開催が決まりました。オリンピックは、スポーツの本質を問いかけ、その精神をグローバル化する使命を持っていると考えています。本学は研究と教育の本質を求め、地球の未来に積極的にコミットし、持てる力を結集して研究学園都市を中心とした地域と地域社会、国と国民、世界と人類の公益に資する開かれた大学として、さらに歩みを続けていきたいと考えています。

2013年9月 吉日

永田恭介